

科目ナンバリング							
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：中国史の基礎資料 ILAS Seminar: Readings of Essential texts for Chinese History			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 辻 正博		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	8(8)人	配当学年	1回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	吉田南総合館475演習室			使用言語	日本語
キーワード	中国史 / 漢文訓読 / 史料講読						
(総合人間学部の学生は、全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。)							
[授業の概要・目的]							
中国史の基本資料を読む—漢文訓読法の基礎 中国史の基本資料を講読する中で、漢文訓読の基本的な技法を身につけることが、この授業の目的です。 日本人は古来、中国の歴史や文化に強い関心を持ち、それを知ろうとしてさまざまな工夫を凝らしてきました。「訓読」とは、中国語(古典漢文)に訓点をつけ、日本語＝「漢字仮名交じり文」として読解するために編み出された、先人の知恵の一つです。現代中国語は現代音で音読するのが普通ですが、古典(漢文)については、訓読方式で読むのも味わい深いものです。 この授業では、中国史の基本資料を「訓読」して、その内容を理解することを目的とします。高校時代に漢文を少しかじった程度の人でも、少し努力をすれば訓読のコツをつかむことは容易です。この機会に、訓読の基本的な技法を身につけましょう。 テキストは『資治通鑑』です。北宋時代に編纂された歴史書ですが、虚飾を排した文章ゆえに、訓読の基礎を身につけるには適していると思います。奮って挑戦してみてください。							
[到達目標]							
伝統中国を知るための基礎となる「漢文」の読解について、基礎的な知識を身につける。							
[授業計画と内容]							
●初回授業時の「ガイダンス」に、授業の進め方について説明しますので、受講希望者は必ず出席すること。 ●訓読の技法を身につけることを第一の目的としますので、2週目以降の授業では、それにふさわしいテキストを輪読します。教材とするテキストを順番に読んでもらい、その後で解説を行います。 ●必要に応じて、授業時に漢和辞典を引いて調べてもらうつもりです。必ず「紙の辞書」を持参すること！ ●ゼミ形式の授業なので、原則として毎回担当してもらいます(1回当たりの担当分量は決して多くはないはず・・・)。無論、毎回出席することを前提として、授業を進めます。							
----- ILASセミナー：中国史の基礎資料(2)へ続く↓↓↓ -----							

ILASセミナー：中国史の基礎資料(2)

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

出席状況（20％）と発表内容（80％）による。単に出席するだけでは「単位」を取ることはできませんので、ご注意下さい。

3度の欠席で「不可」となります。

[教科書]

こちらでテキストを用意し、配布します。

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

高等学校で学習した「漢文」の基礎について、きちんと復習しておくこと。

[その他（オフィスアワー等）]

受講者は、漢和辞典を必ず持参すること。（初回授業時に何点か紹介します。）